

2016 年度 センター試験 物理基礎 (本試験) 分析

全体概況

試験時間 2 科目で 60 分

大問数・解答数	大問数：3 題	解答数：13 問
難易度の変化 (対昨年)	○ 難化 ● やや難化	○ 変化なし ○ やや易化 ○ 易化
問題の分量 (対昨年)	○ 増加	● 変化なし ○ 減少
出題分野の変化	○ あり	● なし
出題形式の変化	○ あり	● なし
新傾向の問題	○ あり	● なし

総評

「反射波の作図と合成」、「気体と液体の圧力」、「変圧器と送電」といった、受験生にとって取り組みにくい問題が出題されたため、やや難化した。特に後者の 2 テーマについては、類題を経験したことがない受験生にとっては難しかったと思われる。

反面、物理基礎の対策として、旧課程物理 I の過去問を利用して学習していた受験生にとっては有利であった。全体を通して、旧課程物理 I の過去に出題された問題の焼き直しが多く、「過去問と全く同じ問題ばかりだ！」と感じた受験生もいたことであろう。

大問別分析

大問	出題分野・テーマ	配点	コメント
第 1 問	<小問集合> 力の合成、分解 エネルギーの移り変わり 気体と液体の圧力 波の反射と合成 電磁誘導	20 点	物理基礎全範囲から万遍なく出題されていた。 問 3 類題を経験したことがない受験生にとっては難しい問題であるが、2011 年度本試験に全く同じ実験設定の出題がある。 問 4 x 軸正の領域の目盛りがないため描図しづらい。 問 5 電磁誘導現象を定性的に理解していれば難しくない。
第 2 問	A. 縦波 B. 変圧器と送電	15 点	A. 教科書の例題レベルの内容である。 B. 類題を経験したことがない受験生にとっては難しい問題であるが、過去に幾度となく出題されたテーマである。
第 3 問	A. 力学的エネルギー保存則 B. 落体の運動(鉛直投げ上げ)	15 点	A、B ともに教科書の例題レベルの内容である。受験生にとって非常に取り組みやすい問題であった。